



国土交通省  
中国地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism  
Chugoku Regional Development Bureau

公表資料

平成25年9月2日

件名 9月1日発生 吉井川水系王子川での魚のへい死について

同時資料提供先

岡山県県政記者クラブ

問い合わせ先

岡山三川水質汚濁防止連絡協議会 事務局  
中国地方整備局 岡山河川事務所  
電話 086-223-5196 (防災情報課直通)

【担当者】 副所長(調査) 川島 明昌(内線205)  
防災情報課長 沖田 宏之(内線281)

# 9月1日発生 吉井川水系王子川での魚のへい死について

9月1日（日）、吉井川水系王子川（和気郡和気町）で魚のへい死が見つかりました。現在、原因について調査中ですが以降の新たな魚のへい死や河川異常は見られません。また、下流の利水施設等において取水停止などは行っていません。

上記について、9月2日17時現在までの状況について次のとおりお知らせします。

なお、水質分析によって農薬の一種が検出されていますが、濃度等については更に分析が必要であり、魚のへい死原因については継続して調査中です。

## 1. 発生日時

平成25年9月1日 9時頃

## 2. 発生場所

吉井川水系王子川

和気郡和気町加三方地内（加部橋付近）

## 3. 発生状況

9月1日

9時頃 地元住民が発見し、和気町役場に連絡

11時頃 和気町職員が現地を確認し、県を通じ岡山河川事務所（水質汚濁防止連絡協議会事務局）へ水質事故として報告。

13時半

県の職員が現地に到着して、「100匹程度の小魚が浮いているのを確認」し、加部橋上下流を巡視したが、油膜等の異常は見られなかった。

その後、現場下流の堰を開放したところ、沈んでいたと思われるへい死魚が大量（700～800匹くらい）に流れ出した。

15時半頃

住民が採取した「河川水」と「へい死魚検体」を県の職員が引継ぎ調査の為持ち帰り。（県も採水を実施）

また、現地ではその後の魚のへい死は見られず、下流の河川に異常はないことを確認後現地は解散

9月2日 県が「河川水」と「へい死魚検体」により原因調査を実施中。

追加調査のため加部橋及び下流吉井川の水を採取し、分析中。

## 4. 発生原因

調査中

## 5. 対応状況

水質汚濁防止連絡協議会事務局（岡山河川事務所）は下流の取水事業者に対し「水質事故についての情報提供」を実施し注意喚起するとともに、利水事業者で実施する試験結果について情報提供の依頼を行った。

水質分析（2日 17時現在分析中 実施機関：岡山県）

水質試験項目：pH、DO（溶存酸素量）、COD（化学的酸素要求量）、BOD（生物化学的酸素要求量）、農薬判定

結果：2日16時20分、農薬の一種であるドリル系農薬（注1）が検出された旨県より受報、県では種類と濃度について更に分析中。

へい死魚検査（9/2 17時現在検査中 実施機関：岡山県）  
目視検査と検鏡検査を行った結果、内臓に異常はみられなかった。  
また、ヒレ、体表、エラにも寄生虫は観察されなかった。  
引き続き、細菌検査を実施中である。  
2日、ドリン系農薬検出の受報後、下流の利水事業者に情報提供を実施。

6. 被害の状況

取水・給水への影響は確認されていない。  
生態系への影響は確認されていない。  
下流から現場付近までの吉井川において9月2日現在異常は確認されていない。

7. 今後の対応

河川巡視において河川の状況を注視し、異常が認められれば必要に応じて水質検査を行う。

（注1）ドリン系農薬は有機塩素系殺虫剤の一種で、現在は使用が禁止又は制限されている。